



お江戸舟遊び 瓦版 1067号

水彩都市江東 ころろ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり
お江戸観光エコシティー・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

エコリーダー養成講座 新砂干潟エコアクション

日時：11月2日9時～14時

主催：えこっくる江東 担当：エコリーダーの会
新しいエコリーダー誕生を目指して、エコリーダー養成講座が開催された。えこっくる江東で干潟の成り立ちや野鳥の話聞き、バスで干潟に移動した。

最初に野鳥の観察を行い、次に散乱する海洋ゴミを拾い、最後に、干潟の生物観察・投網を行った。

野鳥は、カワウ、ウミネコ、カルガモ、ダイサギ、アオサギ、コサギ、マガモ、ヒドリガモ等の12種類が観察された。魚介類は、ボラ、マハゼ、ウロハゼ、ドジョウ、ヤマトオサガニ、アメリカザリガニ等10種類が採れた。

心配された雨も中座して頂き楽しい観察会になった。新しいエコリーダーの誕生を祈念したい。



先ずは室内講義



バスで新砂干潟へ



最初は野鳥観察



一文字堤の鳥・カワウ・ウミネコ・アオサギ



皆で干潟のゴミ拾い



ゴミの分類確認



干潟で元気なカニの体操



仕掛けや投網で魚とり



魚介類の解説

グローバルサウスと現代社会

日時：10月19日

場所：明治大学駿河台校舎グローバルフロント

主催：明治大学大学院商学研究科

趣旨説明・問題提起 所康弘（商学部教授）

- ・ グローバルサウスという記事は、2005年には30件と少なく、2020年には1600件に増加しているが、未だ統一概念は存在していない。
- ・ 現在は、新自由主義への対抗軸となってきた。
 - ① 新自由主義的グローバリゼーション：1980年代以降先進国で導入され、発展途上国に移植。
 - ② 市民社会の異議申し立て：世界社会フォーラムやWTO反対運動など、市民運動が展開。
 - ③ 多様な団体の連携：エコロジスト団体、労働組合、人権擁護団体等多様な団体の連携に。
- ・ グローバルサウスの多様性と課題
 - ① 国家間の分化：最貧国とBRICSのような大国との間で格差が拡大
 - ② 複雑な現実：サウス国家内部における多様な差異や不平等性
 - ③ 戦略的利用：一部の新興国の大国が自国の利益追求のために立場を自任し、利用する

グローバルサウス 誰がそう呼ぶのか？ 西谷修（東京外語大名誉教授）

- ・ 近年、中国のアフリカ進出や傭兵団ワグネルを使ったロシアの軍事絡み浸透も問題視されている。
- ・ ヨーロッパは移民問題で揺れて、移民警戒・排外気運が伸長し、極右政党が進出している。
- ・ 世界戦争は、西洋の世界展開、西洋化の果てに起こった。西洋が戦争の文明で、競争の相互せり上げと総力戦で、核兵器まで作ってしまった。世界戦争破綻の後、他者承認や諸国共存が誕生。
- ・ 各国は戦争に懲りたが、アメリカは一度も被災せず、最強国は手段を手放さない。戦後、米ソ対立、資本主義×社会主義、核武装競争で対峙。国連体制の下、植民地独立。
- ・ 米欧は日本を取り込んで、G7を企画。グローバル・ネオリベ経済（私的利益追求を駆動力として歯止めのない事業の私有化）・貧富の拡大。締め出された国がBRICSを形成した。
- ・ G7、BRICSから漏れ落ちる途上国がグローバルサウスと呼ばれ、ターゲット化されている。
- ・ ロシア再弱体化圧力、新しい西洋・イスラエルの暴虐で、欧米の独善があらわになっているが、世界における「西洋の孤立」が際立ってきている。

地政学的関心を超えて

矢野修一（高崎経済大学経済学部）

- ・ グローバルサウス：資本主義の長期的展開の中で生み出されてきた搾取・抑圧・貧困・不平等
通時性：500年奴隷貿易のひずみ、200年植民地支配、100年の重荷の総力戦
組織的・永続的に実施された大陸間の奴隷貿易、アフリカ・ホロコースト
同期性：欧州における国民国家形成と植民地形成の同期性、国民国家が内包する帝国性

サウスからノースへの移民が示唆するもの

工藤律子（ジャーナリスト）

- ・ 西アフリカからスペインへの移民は、非正規が70万入で、セネガル出身者たちが闘い、市民としての権利を主張・獲得し、義務も果たしている。スペインでは労働者協同組合法により自律。
- ・ 中南米からの米国への移民は、メキシコの移民キャンプを経て、ここまで来れば食べられる！
- ・ 私たちの未来は、サウスの人々がどこまで人として、市民として権利を手に入れられるか、ノースがどこまでサウスの独自性・多様性から学び、自己変革し、協同意識を育めるかに課題が！
- ・ アメリカのフロリダでは、3年いたら住民になれるのに。

所感：日本も含むG7が世界を支配することはもはや不可能な段階で、世界が不平等から脱出できるかが問われている。一人ひとりの国内外を注視した行動が必要で、ウクライナやガザ等の戦争を無くし、SDGs精神：誰一人取り残さない時代を作れるかどうかが課題となっている。（文責 中瀬）

